

## 東京八王子西ロータリークラブ会長賞

時本 莉都(ときもと りつ) みなみ野君田小 6年生

作品名:「わたしの苦手なあの子」を読んで

図書:わたしの苦手なあの子

このお話は、お母さんと二人暮らしのミヒロとやけどで足に傷を負ってしまったリサが友情でつながっていくお話です。

私がこの本と出会ったきっかけは題名にひかれたことです。「わたしの苦手なあの子」という文に共感できる部分があったからだと思います。気になって手にとり、読んでみるといじめについて感じるがありました。

リサは足に傷があり、その傷が気持ち悪いと前の学校でいじめられていました。わざと転ばせられたり、ついには親友にも裏切られ、悪口を言われるようになります。そんなリサはもう人のことは信じられないと冷たくなっています。転校先の新しい学校でもみんなとうちとけようとしませんでした。そんなリサがミヒロは苦手でした。でもリサが大切なGoogleを見つけてくれたことをきっかけに二人のきよりはしだいに縮まっていきました。そしてミヒロがリサの傷を見てからも態度を変えずにリサにつき合ってくれたり、リサをいじめてくる子から守ってあげたりしたことでリサは変わることができたのです。

私がこのお話で心に残った所はミヒロがトラックにひかれそうになった時、リサが雨の中とび出して行ってミヒロを助けた所です。あれだけ冷たかったリサがミヒロを助けたのだから、リサを変えたミヒロはすごいなと思います。

この世の中には前の学校でのリサのようにいじめられて苦しんでいる人、悲しんでいるがたくさんいます。中には一人でかかえこんでしまい、自殺してしまう人も少なくありません。

私も友達とのちょっとした気持ちのすれ違いで悪口を言われたことがあります。その時はすごくつらかったです。一人に言われただけでもつらかったのに、クラスみんなから悪口を言われるとなるともう想像できないくらいすごくつらいんじゃないかなと思いました。

この本を読んで、いじめの重大さを改めて思い知らされました。今までいじめに

ついでの話先生から何度もされましたが、具体的にどうすればいいかよく分かりませんでした。でも、このお話でミヒロのような行動をすればいいんだなと思いました。

「人を傷つけるのも人、なおすのも人」

これはミヒロのおじいちゃんのセリフです。私は本当にそうだなと思いました。リサをいじめたのも人だけど、リサの心を明るくしたミヒロも人だからです。

私はいじめは絶対にしないし、いじめられている子がいたら、ミヒロのような行動ができるようにしたいです。一人一人が気をつければ、この世の中からいじめはなくなると思います。そして、いじめでなやむ人も減ると思います。みんなが安心して楽しく生活できる世の中になってほしいです。